

平成30年度病床機能報告の定量基準分析結果について

定量基準分析（埼玉方式）のあゆみ

平成29年度

- 7月 委託業者の公募・業者決定（みずほ情報総研）
- 8月～10月 データ分析方針の検討
- 11月・2月 「埼玉県地域医療構想推進会議」での分析方針説明・中間報告・意見聴取

平成30年度

- 4月 「埼玉県地域医療構想推進会議」での分析結果報告・意見聴取
- 5月 厚労省主催「地域医療構想に関するワーキンググループ」で事例発表
- 6月 厚労省主催「都道府県医療政策研修」で事例発表
- 8月 「地域医療構想調整会議の活性化のための地域の実情に応じた定量的な基準の導入について」通知 ※厚労省が各都道府県に埼玉方式の分析ツールを提供

令和元年度

- 2～3月 平成30年度診療報酬改定を踏まえた分析業務の委託（みずほ情報総研）

埼玉県病床機能報告定量基準分析の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4 機能	大区分					
	主に成人		周産期	小児		緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	一般病棟 有床診療所の一般病床 地域包括ケア病棟	MFICU NICU GCU	PICU	小児入院医療管理料1	
急性期			産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の急性期一般入院料1 小児科の一般病棟7:1		緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の急性期一般1・ 一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所		
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等					緩和ケア病棟 (放射線治療なし)

具体的な機能に応じて区分線を引く

機能区分基準の考え方

- ① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。
- ② 区分線 1 のしきい値は、救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。
- ③ 区分線 2 のしきい値は、急性期一般入院料 1 の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。
- ④ 区分線 1・2 を設定した結果、高度急性期・急性期・回復期の 1 日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在（2013年）の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病棟の病床数」も大きく変わる。
区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。

高度急性期・急性期の区分（区分線1）の指標

○救命救急やICU等で特に多く提供されている医療

- A：【手術】全身麻酔下手術
- B：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C：【がん】悪性腫瘍手術
- D：【脳卒中】超急性期脳卒中加算
- E：【脳卒中】脳血管内手術
- F：【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術（※）
- G：【救急】救急搬送診療料
- H：【救急】救急医療に係る諸項目（☆）
- I：【救急】重症患者への対応に係る諸項目（☆）
- J：【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目（☆）

※...診療報酬上の入院料ではなくデータから特定がしにくいCCUへの置き換えができなかったこと、
経皮的冠動脈形成術の算定が一般病棟7:1よりもICU等に集中していることによる。

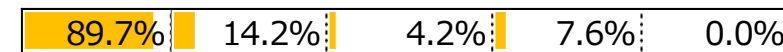
☆...機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→ これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

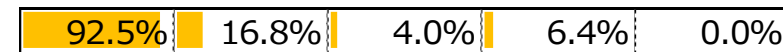
区分線 1 で高度急性期に分類される病棟の割合（平成30年度報告）

区分線1で高度急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	救命・ICU・SCU・HCU	急性期一般病棟1,一般病棟7:1(※)	左記以外の病院一般病棟(※)	有床診の一般病床(※)	地域包括ケア病棟
手術	A	全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	43.2%	2.6%	0.5%	1.9%	0.0%
	B	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	25.0%	3.7%	0.0%	0.6%	0.0%
がん	C	悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	22.7%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%
脳卒中	D	超急性期脳卒中加算	あり	あり	21.6%	1.3%	0.0%	0.0%	算定不可
	E	脳血管内手術	あり	あり	33.0%	2.1%	0.5%	0.0%	0.0%
心血管疾患	F	経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	23.9%	1.6%	0.5%	0.6%	0.0%
救急	G	救急搬送診療料	あり	あり	12.5%	0.8%	0.0%	0.0%	算定不可
	H	救急医療に係る諸項目（下記の合計） ・救命のための気管内挿管 ・体表・食道ペースティング法 ・非開胸的心マッサージ ・カウンターショック ・心膜穿刺 ・食道圧止血チューブ挿入法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	65.9%	2.6%	1.0%	1.3%	0.0%
	I	重症患者への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的肺動脈圧測定 ・持続緩徐式血液濾過 ・大動脈バルーンポンピング法 ・経皮的心肺補助法 ・人工心臓 ・頭蓋内圧持続測定(3時間超) ・人工心肺 ・血漿交換療法 ・吸着式血液浄化法 ・血球成分除去療法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	45.5%	1.1%	0.5%	0.0%	0.0%
全身管理	J	全身管理への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的動脈圧測定(1時間超) ・ドレーン法 ・胸腔穿刺 ・人工呼吸(5時間超)	8.0回/月・床以上	320回/月以上	44.3%	1.6%	0.0%	0.0%	2.6%
上記A～Jのうち1つ以上を満たす					90.9%	14.5%	2.5%	4.4%	2.6%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。



(参考) 平成29年度該当病床割合



(参考) 平成28年度該当病床割合

急性期・回復期の区分（区分線2）の指標

○急性期一般入院料1（従前の一般病棟7:1）にて多く提供されている医療

- K：【手術】手術
- L：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M：【がん】放射線治療
- N：【がん】化学療法
- O：【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

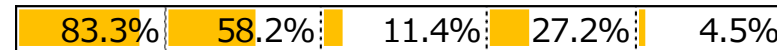
■ P：【重症度、医療・看護必要度】

基準（「A得点2点以上かつB得点3点以上」「B14又はB15に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」）を満たす患者割合

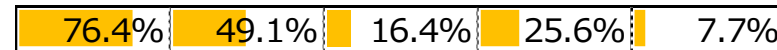
→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

区分線2で急性期に分類される病棟の割合（平成30年度報告）

区分線2で急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			稼働病床1床当たりの回数	40床の病棟に換算した場合	急性期一般病棟1,一般病棟7:1(※)	急性期一般病棟2-7,一般病棟10:1(※)	その他一般病棟(※)	有床診の一般病床(※)	地域包括ケア病棟
手術	K	手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	8.4%	4.1%	2.6%	19.6%	0.0%
	L	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.1回/月・床以上	4回/月以上	20.5%	10.7%	1.3%	1.3%	0.0%
がん	M	放射線治療（レセプト枚数）	0.1枚/月・床以上	4枚/月以上	8.4%	1.7%	0.0%	0.0%	2.6%
	N	化学療法（日数）	1.0日/月・床以上	40日/月以上	13.7%	2.5%	2.6%	0.0%	0.0%
救急	O	予定外の救急医療入院の人数	10人/年・床以上	33.3人/月以上	16.6%	19.0%	2.6%	0.0%	7.9%
重症度等	P	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者割合	I:30%以上 II:25%以上		63.4%	47.9%	9.2%	0.0%	5.3%
上記K～Pのうち1つ以上を満たす					82.1%	62.8%	18.4%	20.3%	15.8%



(参考) 平成29年度該当病床割合



(参考) 平成28年度該当病床割合

平成30年度（2018）診療報酬改定に伴う変更点

- 区分線 2（急性期と回復期の区分線）の基準として用いる重症度の評価（急性期と判断する基準）について、診療報酬改定に合わせて見直しを行った。

～H29

H30～

一般病棟	7:1	※ 診療報酬改定により入院料が細分化されたが、一般病棟7:1入院料は急性期一般入院料1に踏襲されている	急性期一般入院料1
一般病棟	10:1		急性期一般入院料2 急性期一般入院料3 急性期一般入院料4 急性期一般入院料5 急性期一般入院料6 急性期一般入院料7
一般病棟	13:1		地域一般入院料1 地域一般入院料2
一般病棟	15:1		地域一般入院料3

○診療報酬改定に合わせて、急性期に該当する患者の基準について、見直しを行う。

- 重症度、看護・医療必要度
- ・ A得点2点以上かつB得点3点以上
 - ・ A得点3点以上
 - ・ C得点1点以上

→該当する患者が25%以上

重症度、看護・医療必要度

- ・ A得点2点以上かつB得点3点以上
- ・ [B14]又は[B15]に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上
- ・ A得点3点以上
- ・ C得点1点以上

→該当する患者が 必要度Ⅰ：30%以上
必要度Ⅱ：25%以上

平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

4機能区分別の病床稼働率について、「(国の基準による)地域医療構想における想定%」と「今回の区分結果の%」との比較表示をしている。

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	88病床	597人/日	888床	67.7%	3.6日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病床	2,037人/日	2,609床	77.1%	9.8日	
		急性期	367病床	12,061人/日	15,516床	79.2%	12.1日	
	回復期リハビリ病床	回復期	283病床	6,694人/日	10,237床	68.1%	18.3日	
		回復期	78病床	2,980人/日	3,628床	89.9%	64.6日	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	65病床	2,561人/日	3,014床	83.0%	93.8日	
	医療療養病床	慢性期	187病床	7,561人/日	8,817床	87.4%	221.3日	
介護療養病床	慢性期	16病床	653人/日	802床	78.8%	265.8日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病床	265人/日	417床	62.6%	14.2日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	産科の一般病床	急性期	94病床	1,593人/日	2,267床	75.6%	6.7日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	11病床	273人/日	336床	81.2%	7.6日	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		急性期	17病床	306人/日	531床	60.9%	5.7日	
		回復期	3病床	17人/日	59床	40.7%	7.7日	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	3病床	62人/日	79床	78.7%	21.7日	
		慢性期	12病床	123人/日	236床	56.2%	21.4日	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	3,172人/日	75.0%	74.1%
急性期	14,021人/日	78.0%	78.2%
回復期	9,691人/日	90.0%	73.2%
慢性期	10,898人/日	92.0%	85.4%
不明	150人/日	—	13.5%
合計	37,932人/日	—	76.7%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病床	89.9%
うち産科・小児科を除く急性期一般病床1、一般病床7:1	74.0%
うち産科・小児科を除く他の一般病床	68.5%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病床等	75.2%
うち産科・小児科を除く有床診療所	42.4%
うち小児科の一般病床・有床診療所	40.7%

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	192病床	3,172人/日	4,250床	6,014床	5,528床	74.1%	7.5日
急性期 計	481病床	14,021人/日	18,393床	25,138床	17,954床	78.2%	10.8日
回復期 計	364病床	9,691人/日	13,924床	5,336床	16,717床	73.2%	23.1日
慢性期 計	280病床	10,898人/日	12,869床	12,998床	14,011床	85.4%	159.2日
入院料に関する報告がなく分類できない病床の病床(※)	53病床	150人/日	1,130床	1,080床※	—	13.5%	11.8日
合計等	1,370病床	37,932人/日	50,566床	50,566床	54,210床	76.7%	16.8日

4機能区分	入院料に関する報告がない病床等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	5床
急性期	287床
回復期	73床
慢性期	62床
休棟中・無回答	703床
合計	1,130床

※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病床を除いて算出。

4機能区分別の病床数について、「今回の区分結果」「病床機能報告」「地域医療構想の必要病床数」の3つを比較表示。

回復期については、入院料や診療科の種類によって、より細分化する形で、病床稼働率を表示。

平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【川越比企圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	7病床	77人/日	98床	74.2%	4.7日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	6病床	163人/日	199床	79.1%	8.8日	
		急性期	50病床	1,722人/日	2,077床	81.0%	12.3日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	39病床	898人/日	1,475床	58.7%	17.0日	
		回復期	11病床	465人/日	560床	80.4%	67.4日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	8病床	345人/日	376床	92.8%	38.4日	
	医療療養病床	慢性期	30病床	1,321人/日	1,431床	92.1%	275.6日	
介護療養病床	慢性期	1病床	8人/日	61床	12.7%	44.3日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	7病床	121人/日	180床	67.0%	16.3日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	産科の一般病床	急性期	13病床	254人/日	335床	85.9%	6.4日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病床	79人/日	104床	75.6%	7.0日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
		慢性期	2病床	21人/日	50床	41.1%	19.1日	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	440人/日	75.0%	73.1%
急性期	1,976人/日	78.0%	81.7%
回復期	1,362人/日	90.0%	64.6%
慢性期	1,694人/日	92.0%	87.7%
不明	51人/日	—	29.7%
合計	5,522人/日	—	76.2%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	80.4%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	55.1%
うち産科・小児科を除く他の一般病棟	59.3%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	69.9%
うち産科・小児科を除く有床診療所	38.5%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

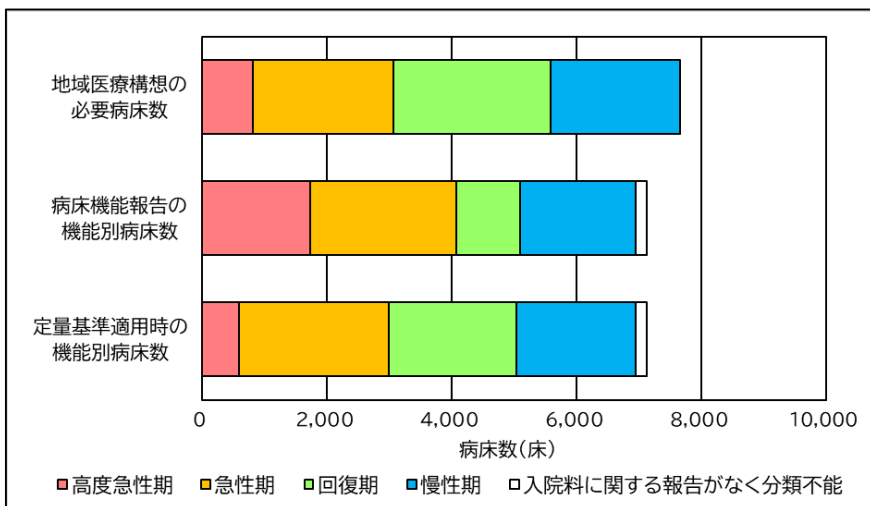
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	23病床	440人/日	581床	1,726床	802床	73.1%	9.0日
急性期 計	63病床	1,976人/日	2,412床	2,342床	2,260床	81.7%	10.8日
回復期 計	50病床	1,362人/日	2,035床	1,024床	2,518床	64.6%	22.8日
慢性期 計	41病床	1,694人/日	1,918床	1,850床	2,072床	87.7%	145.4日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	5病床	51人/日	170床	174床※	-	29.7%	15.6日
合計等	182病床	5,522人/日	7,116床	7,116床	7,652床	76.2%	18.3日

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	97床
回復期	34床
慢性期	0床
休棟中・無回答	39床
	170床

※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満、「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



【集計分析結果から想定される課題(仮)】

- 回復期について現在の病床数よりも、将来の必要病床数が大きく上回っている。
- 一方で、回復期の病床稼働率が、県平均と比べて低い(64.6%)。
- 回復期について、回復期リハビリテーション病棟と軽症急性期の両方について、病床稼働率の向上も含めて需要増への対応が必要ではないか。
- 病床機能報告での報告ベースでの高度急性期の病床数が多いことから、地域医療構想調整会議で協議を行う際には、高度急性期を担う病棟が満たすべき要件を明確化した上で、それをどの病院・病棟が担うかを整理することが必要ではないか。

(参考) 平成29年度病床機能報告 定量基準分析結果 【川越比企圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計				川越比企圏域				備考
			該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病床	548人/日	835床	65.7%	7病床	70人/日	98床	71.1%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病床	1,858人/日	2,508床	74.1%	9病床	209人/日	272床	76.8%	
		急性期	343病床	11,780人/日	14,764床	79.8%	41病床	1,452人/日	1,764床	82.3%	
		回復期	262病床	6,604人/日	9,746床	67.8%	36病床	1,008人/日	1,428床	70.6%	
	回復期リハビリ病床	回復期	74病床	3,103人/日	3,448床	90.0%	11病床	488人/日	560床	87.1%	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	59病床	2,457人/日	2,839床	86.5%	8病床	296人/日	376床	78.8%	
	医療療養病床	慢性期	172病床	6,921人/日	8,067床	85.8%	30病床	1,325人/日	1,418床	93.5%	
介護療養病床	慢性期	9病床	370人/日	464床	79.8%	0病床	0人/日	0床			
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病床	207人/日	342床	60.6%	7病床	127人/日	180床	70.6%	
	産科の一般病床	急性期	93病床	1,488人/日	2,260床	65.8%	14病床	254人/日	350床	72.7%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	11病床	183人/日	336床	54.5%	3病床	78人/日	104床	75.2%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病床	308人/日	533床	57.9%	0病床	0人/日	0床		
		回復期	2病床	26人/日	47床	54.4%	0病床	0人/日	0床		
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	5病床	76人/日	114床	67.0%	0病床	0人/日	0床	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする	
		慢性期	7病床	82人/日	131床	62.7%	2病床	34人/日	50床		68.5%

4機能区分	埼玉県計				川越比企圏域				各医療機関が報告した病床数 (H29病床機能報告)	2025年の必要病床数 (地域医療構想)
	該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率		
高度急性期	185病床	2,797人/日	4,021床	69.6%	26病床	484人/日	654床	74.0%	1,752床	802床
急性期	457病床	13,652人/日	17,671床	77.3%	55病床	1,707人/日	2,114床	80.7%	2,344床	2,260床
回復期	338病床	9,733人/日	13,241床	73.5%	47病床	1,496人/日	1,988床	75.2%	997床	2,518床
慢性期	247病床	9,830人/日	11,501床	85.5%	40病床	1,656人/日	1,844床	89.8%	1,848床	2,072床
入院料に関する報告がなかつた分類できない病床の病床	35病床	102人/日	512床	20.0%	5病床	1人/日	60床	2.4%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	—	—	—	—	363床	—
合計等	1,262病床	36,114人/日	46,946床	76.9%	173病床	5,343人/日	6,660床	80.2%	7,304床	7,652床

注：「合計等」欄の許可病床数の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含められない病床がある。

	埼玉県	川越比企
高度急性期	23床	0床
急性期	1,007床	247床
回復期	138床	0床
慢性期	1,251床	61床
休棟・未報告等	1,317床	336床
計	3,736床	644床

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

(参考) 平成28年度病床機能報告 定量基準分析結果 【川越比企圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計			川越比企圏域			備考
			該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	733床	61.9%	9病棟	112床	35.7%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,852床	79.1%	8病棟	281床	77.3%	
		急性期	292病棟	12,713床	78.1%	43病棟	1,873床	75.2%	
		回復期	257病棟	9,968床	65.3%	30病棟	1,138床	67.1%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,737床	86.5%	9病棟	447床	89.2%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	2,027床	89.5%	5病棟	204床	87.9%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,837床	88.9%	30病棟	1,417床	92.6%	
介護療養病床	慢性期	12病棟	587床	87.2%	1病棟	61床	89.6%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	581床	96.2%	11病棟	314床	98.9%	
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,550床	67.9%	5病棟	151床	62.8%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病棟	116床	79.4%	2病棟	88床	78.4%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病棟	723床	46.7%	0病棟	0床		
		回復期	3病棟	87床	70.5%	0病棟	0床		
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	97床	63.6%	0病棟	0床	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする	
		慢性期	6病棟	99床	65.3%	1病棟	20床		76.9%

4機能ごとに集計

4機能区分	埼玉県計			川越比企圏域			各医療機関が報告した病床数 (H28病床機能報告)	2025年の必要病床数 (地域医療構想)
	該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率		
高度急性期 計	180病棟	4,282床	78.5%	30病棟	795床	80.1%	1,788床	802床
急性期 計	376病棟	15,083床	75.5%	48病棟	2,024床	74.3%	2,392床	2,260床
回復期 計	320病棟	12,792床	69.9%	39病棟	1,585床	73.4%	781床	2,518床
慢性期 計	209病棟	9,550床	88.7%	37病棟	1,702床	91.7%	1,834床	2,072床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	27病棟	318床	14.4%	5病棟	35床	5.3%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	—	—	509床	—
合計等	1,112病棟	42,025床	76.6%	159病棟	6,141床	79.2%	7,304床	7,652床

注：「合計等」欄の許可病床数（埼玉県計＝42025床、川越比企圏域＝6141床）の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含められない病床がある（埼玉県計＝8347床、川越比企圏域＝1163床）。

(参考) 各医療機関の報告上の機能

(高度急性期：0床 急性期：382床 回復期：173床 慢性期：120床 休棟：45床 未報告：443床)

平成28年度病床機能報告のデータから作成

(参考) 平成29年度病床機能報告 定量基準分析結果 【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病棟	548人/日	835床	65.7%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病棟	1,858人/日	2,508床	74.1%	
		急性期	343病棟	11,780人/日	14,764床	79.8%	
		回復期	262病棟	6,604人/日	9,746床	67.8%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	74病棟	3,103人/日	3,448床	90.0%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	59病棟	2,457人/日	2,839床	86.5%	
	医療療養病床	慢性期	172病棟	6,921人/日	8,067床	85.8%	
介護療養病床	慢性期	9病棟	370人/日	464床	79.8%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病棟	207人/日	342床	60.6%	
	産科の一般病床	急性期	93病棟	1,488人/日	2,260床	65.8%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	11病棟	183人/日	336床	54.5%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病棟	308人/日	533床	57.9%	
		回復期	2病棟	26人/日	47床	54.4%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	5病棟	76人/日	114床	67.0%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	7病棟	82人/日	131床	62.7%	

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	各医療機関が報告した病床数 (H29病床機能報告)	2025年の必要病床数 (地域医療構想)
高度急性期 計	185病棟	2,797人/日	4,021床	69.6%	6,365床	5,528床
急性期 計	457病棟	13,652人/日	17,671床	77.3%	24,702床	17,954床
回復期 計	338病棟	9,733人/日	13,241床	73.5%	4,830床	16,717床
慢性期 計	247病棟	9,830人/日	11,501床	85.5%	13,013床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	35病棟	102人/日	512床	20.0%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	1,772床	—
合計等	1,262病棟	36,114人/日	46,946床	76.9%	50,682床	54,210床

注：病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が3,736床ある。

	埼玉県
高度急性期	23床
急性期	1,007床
回復期	138床
慢性期	1,251床
休棟・未報告等	1,317床
計	3,736床

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

(参考) 平成28年度病床機能報告 定量基準分析結果 【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	許可病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	454人/日	733床	61.9%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・ 地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,257人/日	2,852床	79.1%	
		急性期	292病棟	9,935人/日	12,713床	78.1%	
		回復期	257病棟	6,511人/日	9,968床	65.3%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,367人/日	2,737床	86.5%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	1,814人/日	2,027床	89.5%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,081人/日	6,837床	88.9%	
介護療養病床	慢性期	12病棟	512人/日	587床	87.2%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	559人/日	581床	96.2%	
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,052人/日	1,550床	67.9%	
小児	小児入院管理料・小児科の 一般病棟等	高度急性期	3病棟	92人/日	116床	79.4%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病棟	337人/日	723床	46.7%	
		回復期	3病棟	61人/日	87床	70.5%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	62人/日	97床	63.6%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	6病棟	65人/日	99床	65.3%	

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	許可病床数	病床稼働率	平成28年度病床機能報告において各医療機関が報告した病床数	地域医療構想における2025年の必要病床数
高度急性期 計	180病棟	3,362人/日	4,282床	78.5%	6,707床	5,528床
急性期 計	376病棟	11,386人/日	15,083床	75.5%	24,118床	17,954床
回復期 計	320病棟	8,939人/日	12,792床	69.9%	4,437床	16,717床
慢性期 計	209病棟	8,472人/日	9,550床	88.7%	12,965床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	27病棟	46人/日	318床	14.4%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	2,145床	—
合計等	1,112病棟	32,205人/日	42,025床	76.6%	50,372床	54,210床

注：表の42,025床の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2が突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が8,347床ある。

	埼玉県
高度急性期	115床
急性期	2,497床
回復期	775床
慢性期	2,692床
休棟・未報告等	2,268床
計	8,347床

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

(参考) 各圏域の定量基準による機能別病床稼働率 (平成30年度報告)

大区分	4機能区分まとめ					合計
入院料・診療科	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	不明	
4機能区分						
埼玉県全体	74.1%	78.2%	73.2%	85.4%	13.5%	76.7%
南部	81.3%	85.6%	78.4%	84.4%	0.0%	81.0%
南西部	52.5%	75.2%	69.9%	90.1%	-	74.7%
東部	69.6%	78.1%	78.0%	83.5%	16.6%	76.4%
さいたま	81.1%	79.8%	75.7%	80.3%	8.0%	77.3%
県央	81.1%	82.7%	72.8%	88.0%	12.1%	78.2%
川越比企	73.1%	81.7%	64.6%	87.7%	29.7%	76.2%
西部	71.3%	72.5%	77.4%	85.7%	0.0%	77.7%
利根	81.9%	76.3%	71.3%	86.6%	26.7%	75.9%
北部	63.2%	69.4%	69.4%	88.4%	0.0%	72.6%
秩父	-	79.0%	83.9%	70.6%	0.0%	73.1%

(参考) 各圏域の定量基準による機能別平均在棟日数 (平成30年度報告)

大区分	4機能区分まとめ					合計
入院料・診療科	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	不明	
4機能区分						
埼玉県全体	7.5日	10.8日	23.1日	159.2日	11.8日	16.8日
南部	8.9日	10.5日	21.9日	88.2日	-	14.6日
南西部	8.4日	9.5日	24.2日	173.7日	-	16.9日
東部	7.2日	10.3日	25.5日	131.2日	94.4日	16.5日
さいたま	7.1日	10.7日	26.4日	200.5日	15.9日	13.2日
県央	6.7日	11.4日	22.5日	220.8日	9.0日	16.9日
川越比企	9.0日	10.8日	22.8日	145.4日	15.6日	18.3日
西部	7.2日	11.0日	21.2日	232.0日	-	20.4日
利根	6.9日	11.0日	23.7日	127.8日	3.4日	16.1日
北部	6.5日	12.9日	20.8日	194.2日	-	20.2日
秩父	-	16.3日	21.4日	113.1日	-	29.6日